

平成29年度 施策評価表

課・グループ名

消防南幌支署

作成年月日：平成30年 9月25日

施策名	4-(1)-② 地域医療の確保（救急体制の確保）		
1. 施策の現状分析及び展開方向			
政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	4. 健康的で自立した暮らしを支える保健福祉と医療の整ったまちづくり	(1) 充実した医療環境の確立	②地域医療の確保（救急体制の確保）
①施策のねらいと展開方向	<ul style="list-style-type: none"> ● 救急体制の充実強化のため、救急救命士の認定資格者を養成します。また、将来にわたり救急体制を維持させるため、高度な知識を習得した救急救命士の育成に努めます。 ● 医師、看護師及び病院と救急隊が連携することにより特定行為を含む救命処置が迅速かつ的確に行え、また病院選定と搬送時間の短縮が可能になります。これにより患者及び家族の苦痛・不安の軽減を図ります。 ● 救急救命士数を維持し、救命率の低下等を防ぎ、住民サービスの維持向上に努めます。 		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 本町では、栗山町、長沼町、由仁町の四町で一部事務組合を組織し救急業務を行っていますが、高齢化に伴い急病による救急要請が増加しています。 ● 傷病者の搬送は町立病院を基本としていますが、傷病の状態によっては、近隣市町の中核医療機関への搬送も行っています。 ● 救急活動は、救急救命士8名を含む18名で行っています。 ● 町立病院は救急告示指定病院となっており、休日・夜間を問わず対応しているものの、診療科目が限られているため、十分な救急体制が整っていない状況にあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 救急救命士に対し生涯にわたる教育を行う必要があります。また、救急救命士が行える処置の範囲が拡大され、それらの処置を行うことができる認定救急救命士を養成し救急体制の充実強化を図る必要があります。 ● 救急救命士が救急自動車で特定行為をするために、町立病院の医師・看護師等との連携体制が必要です。 ● 救急救命士の高齢化により現場での活動が困難になることが予想されるため、計画的に救急救命士数を維持する必要があります。 	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況							
① 成果指標	意図、現状と課題のキーワード			まちづくりの成果指標名		数値化	
	救急救命士の処置内容が拡大され、それらの処置を行える認定救急救命士の養成数を成果指標として設定している。 平成26年度までは気管挿管認定と薬剤投与の2項目の認定を成果指標としていたが、平成27年度からは拡大2行為（ブドウ糖投与、重症者に対する輸液）とビデオ挿管が追加され、合計4項目の認定を成果指標（認定4項目各8名、合計32名）としている。			成果指標（総合計画・施策評価）		可能	
						不可能	
				代替指標 ※成果指標がない場合		指標の設定	
			救急救命士追加資格認定 （薬剤投与、気管挿管、拡大処置、ビデオ喉頭鏡）		○ 可能		
					不可能		
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。							
②指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由
		H26	H27	H28	H29	H33	
目標	人	14	32	32	32	32	
実績	人	13	15	17	20		
達成率	%	92.9%	46.9%	53.1%	62.5%		
評価視点		評価結果				理由、課題・問題点	
③施策の達成状況		A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)				施策の達成度	講習機関等の受入枠が不足している為、講習・実習の申請をしているが計画通りには進んでいない。長期的な計画の中で関係機関と連携して目標達成を目指す。 医師・看護師との連携については南幌救急カンファレンスとして開催しており医師、看護師からの助言等を頂き互いに情報共有を行っており、H26年度から毎年開催しH29年度で4回目となる。 救命士については昨年度1名、今年度1名を養成機関に派遣し計画的に養成を図っている。
		B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)					
		C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)				B	
		D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)					

